

## 塚本駅 (JR神戸線・宝塚線)

## 哀しき一夜官女伝説の村・野里を行く



「大阪あそ歩マップ集」  
その1 No.002

## JR塚本駅

## ①鼻川神社御旅所

- 御旅所の東側の曲がりくねった
- 街道が、昔の中津川左岸の名残
- ▼ であるといわれています。

## ②鼻川神社

- 神功皇后が鹿島に御幸の際に当地に立ち寄り、付近の住民たちが柏の葉に載せた餅を献上しました。神功皇后は当地が無名であると聞いて、川の対岸に突出した「鼻」のような地形を「はなかわ」、渡しを「かしわ」と命名しました。その後、神功皇后を祀り、のちに住民と関係の深い海老江の氏神である須佐之男命を併せて祀るようになったのが神社の縁起です。



## ③野里住吉神社

- 神事に一夜官女祭 (大阪府指定文化財) があります。かつて野里村は「泣き村」と呼ばれるほど、風水害や疫病に見舞われた時代がありました。悩み苦しんだ村人たちは「村を救うために乙女を神に捧げよ」という神託を聞き、旧暦1月20日に白矢の打ち込まれた家の娘を唐櫃に入れ、人身御供として捧げることにしました。7年後、村を通りかかった1人の武士がこの話を聞いて「神は人を救うが人を犠牲に求めることはない」と述べ、乙女の身代わりに唐櫃の中へ。翌朝、

- 村人が様子を窺うと武士の姿はなく、唐櫃から血の跡が点々と残っていて、それを辿ると大蛇 (狒々という説もあります) が絶命していました。現在の一夜官女祭は2月20日に執り行われ、氏子より選ばれた7人の少女が美しく飾られた御供物の桶7台とともに神前に進み献じます。

## ④櫛の橋跡・野里の渡し跡

- 新淀川改修以前の中津川はこの付近を流れ、「野里の渡し」が置かれていました。『摂陽群談』(元禄14年〔1701〕刊行)には「野里渡」とあり、尼崎方面への街道の一部になっていました。その後、明治9年(1876)に「櫛の橋」という有料の木橋が架けられ、この橋は中津川が埋め立てられる明治39年(1906)ごろまでありました。

## ⑤池永家住宅

- 江戸時代の都市近郊農家で、歴史的景観に寄与しているものとして、国指定登録有形文化財になっています。主屋は18世紀中ごろに建てられ、文化年間(1804~18)の増改築を経て、明治中期に現在の形となりました。柱や土間の梁組など古民家の要素をよく残っていて、かつての野里村の農村景観を彷彿とさせます。



## JR塚本駅

